

岩手県金融経済概況（平成 25 年 12 月）

1. 概 況

県内経済は、回復している。

最終需要の動向をみると、個人消費は、底堅く推移している。公共投資は、大幅に増加している。住宅投資は、高水準を維持している。設備投資は、増加している。

鉱工業生産は、緩やかに持直しており、雇用、所得環境は、改善している。

2. 最終需要

(1) 個人消費

百貨店売上高（12 月）は、冬物衣料品の売上げが天候要因（前年比気温が高目）等から不冴え裡に推移したこともあり、前年割れとなった（平成 22 年 12 月対比では、プラスを維持）。

スーパー売上高（11 月；全店舗ベース）は、前年を僅かながら下回った。

新車登録台数（12 月）は、新車投入効果や消費税率引き上げ前の駆け込み需要もあって、前年を上回った。

(2) 建設投資（公共投資、設備投資、住宅投資）

公共投資（公共工事請負額；12 月）は、大幅に増加している。

—— 大型工事の内訳をみると、震災復旧関連工事に加えて、災害公営住宅、震災復興団地関連工事（基盤整備工事や新築＜建築＞工事）も目立つ。

民間設備投資（平成 25 年度計画；短観ベース）は、震災復旧投資の一服等から前年を下回る計画ながら、個別には、製造業で需要回復を眺めて能力増強投資を積み増す動きがみられているほか、非製造業でも震災復旧復興需要の増加等を反映して、年度計画の増額修正を行う先が目立っている。

住宅投資（新設住宅着工戸数；11 月）は、貸家が前年同時期の集中着工の反動減となったことを主因に、高水準ながらも前年を下回った。

県内における官民建設工事全体の出来高（建設総合統計；11 月）は、高水準の前年を更に上回る伸びを続けている。

3. 生産動向

県内鉱工業生産は、緩やかに持ち直している。

—— 業種別鉱工業生産指数（11月；季節調整済計数）をみると、内外需要の増加を反映して、はん用・生産用・業務用機械工業、窯業土石製品工業等多くの業種で増加している。

4. 雇用、所得の動向

雇用情勢は、改善している。

有効求人倍率（11月）は、1.08倍となった（7ヵ月連続での1倍超）。

—— 地域毎の動向（原数値ベース）では、前月（10月）に続いて殆どの地区で1倍を上回った。

雇用保険被保険者数（民間企業中心の全数調査；11月）は、3ヵ月連続で直近ピークを更新した。

名目賃金指数（10月）は、「特別に支払われた給与」が前年を下回ったことから前年対比でマイナスに転化した。

雇用者所得（県内合計値；10月）は、前年を下回った。

5. 企業倒産

企業倒産（12月）は、6件、9.4億円であった（件数は前年並み、金額は前年を下回った）。

—— 平成25年合計では、41件、128.5億円となった（件数は平成24年並み、金額は前年を上回った）。

6. 金融面の動向

県内民間金融機関の預金は、個人、法人が前年を上回って推移しているほか、公金は前年比高い伸びを続けていることから、全体でも前年を上回った。

貸出は、前年を上回っている。貸出約定平均金利は、低下している。

以 上

本件に関する問い合わせ先：

日本銀行盛岡事務所

TEL：019-624-3622（代）

<http://www3.boj.or.jp/morioka/>